

## 平成30年度 第3回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成31年2月27日（水） 第3回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:40～20:15
2. 場 所 帯広市役所 10階 第2会議室
3. 出席委員 稲葉秀一部会長、大滝達哉副部長、一柳伸吾委員、佐々木修一委員、  
住谷晋専門委員、横尾洋子専門委員、森茂樹専門委員、車谷香織専門委員  
(宇野雅樹委員 欠席)
4. 会議次第
  - (1) 前回会議の議事録（案）の確認
  - (2) 平成31年度健康推進課関係予算（案）について
  - (3) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

みなさま、こんばんは。定刻となりましたので、  
ただ今から、平成31年度第3回地域医療推進部会を開会いたします。  
本日は宇野委員から欠席のご連絡がありました。地域医療推進部会、委員9名中、8名のご出席を  
いただいております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。  
それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ●部会長

それでは、会議に入らせていただきます。  
最初に、前回会議の議事録の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認い  
ただいた後、公開される予定となっております。前回、回答保留となっていた部分もありますので、  
その件につきまして、事務局から説明願います。

#### ○事務局

前回議事録につきまして補足説明させていただきます。まず3ページをご覧ください。下から4つ  
目の◎、部会長から、協会病院の周産期医療に対する補助がどこに入っているのかとのお質問があり  
ましたが、周産期医療に対する補助は予算計上されておりませんので、この中に含まれておりません。  
次に4ページをご覧ください。上から3つ目の◎、成人用肺炎球菌予防接種の自己負担額について、  
他市の金額を確認しお知らせすることになっていたものです。別紙の「高齢者肺炎球菌 自己負担額  
各市等の状況」をご覧ください。自己負担額は、各自治体によって幅があり、2,400円～4,400円とな  
っております。帯広市の2,900円は、概ね中間あたりの金額設定となっております。なお、近隣の音  
更町は、町が4,000円を助成、芽室町は、町が半額を助成しております。

このような状況となっております。説明は以上です。

●部会長

ただいまの説明も含め、議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

【質疑なし】

●部会長

よろしいでしょうか。無いようですので議事録は了承されたものといたします。次に、「平成31年度健康推進課関係予算（案）について」を議題といたします。事務局から、説明願います。

○事務局

平成31年度の健康推進課関係予算（案）につきまして、説明させていただきます。

資料は1と2になります。始めに「資料1」をご覧ください。

平成31年度の健康推進課関係予算について、予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。

左側に事業区分を記載しており、平成31年度の予算額は一番右側をご覧ください。

内訳といたしましては、

保健衛生総務費が2億8,651万円、

そのうち、主なものでは、

保健衛生推進費	1,158万8千円	
食・運動改善推進費	88万7千円	
公衆浴場対策費	1,481万5千円	
看護師等養成機関確保対策費	7,986万円	
帯広厚生病院運営費補助事業費	1億7,010万円	
すこやかネット事業費	431万7千円	などとなっております。

前年度に比べ増加しているのは、看護師等養成機関確保対策費が、184万8千円の増で、要因は主に帯広高等看護学院運営費分担金の増によるものです。また、帯広厚生病院運営費補助が、140万円の増となっておりますが、こちらは特別交付税単価の増によるものです。

続きまして、夜間急病診療費は、1億5,459万3千円となっております。

内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、7,810万8千円で318万3千円の増、在宅当番や二次救急医療などの救急医療対策費が7,648万5千円で、500万9千円の増となっております。

休日夜間急病センター管理運営費の増額理由といたしましては、

10月から10%となる消費税増税分と、平成29年度から平成33年度の5か年契約の中で毎年委託料が増減しているためでございます。救急医療対策費の増額につきましては、5月の大型連休への対応及び整形外科支援体制増などにより増額となっております。

続きまして、

予防費は、総額で4億9,869万2千円となっております、

主なものといたしましては、

がん検診・健康診査費等	1億3,811万7千円、
予防接種費	2億8,589万1千円、

感染症予防費 6, 281万9千円、  
健康教育費 843万3千円、  
などとなっております。

増減につきましては、がん検診・健康診査費が、31年予算では、150万6千円の減となっております。

理由といたしましては、30年10月末までの実績値を参考とした積算であり、その時点までの受診者の減によるものでございます。なお、新規に導入予定の胃内視鏡検査については、この経費に中に含まれております。

予防接種費につきましては、対象者の減により減っておりますが、国において39歳から56歳の男性の風疹抗体価検査及び、風疹予防接種が定期化されることが決定していることから、今後補正予算等で対応することになる予定です。

感染症予防費につきましては、高齢者の肺炎球菌予防接種についての当初予算は、65歳のみで計上していることなどにより、1,467万円の減となっております。なお、高齢者の肺炎球菌の定期接種につきましては、平成26年度から平成30年度までの5年間の経過措置として実施されておりましたが、平成31年度から平成35年度までの5年間についても、引き続き定期接種として実施されることとなっております。

次に、保健福祉センター費として、4,408万9千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

以上、総事業費は、右下の歳出予算合計 9億8,388万4千円となります。

続きまして、資料2、「平成31年度 健康推進課事業の概要」でございます。こちらは、ただいまご説明いたしました、資料1の内訳となります。

まず、左側の、保健衛生総務費は、2億8,651万円で、医療体制の整備や医療の人材不足への対応のほか、公衆浴場対策、健康まつりや健康づくりのボランティアの養成、育成など市民の保健予防の推進のための予算となっております。日本農村医学会学術総会開催地補助金については、全国規模の大会であり、保健衛生や市民の健康に寄与するものとして補助するものです。

次に、中央の予防費は、4億9,869万2千円で、胃がん、肺がん、子宮がん、乳がんの5大がんの検診のほか、各種健康診査、予防接種や感染症予防、結核予防など、疾病の予防、早期発見、早期治療のための経費と、健康相談、健康教育、訪問指導の経費を計上しております。

健康教育費には、けんこう帯広21と自殺対策計画をすすめるための2経費を盛り込んでおりますが、重点課題である糖尿病、がん、こころの健康について一層の取り組みを進めるため、健康づくりの普及啓発や各種講座などの健康教育の手法を一部見直ししながら、自殺対策計画の中にもある相談対応を充実させ、健康相談の中でも、複雑な悩みを抱える市民に対して丁寧に話をきき、庁内連携のもと解決に向けた対応をしております。

平成31年度の新たな取り組みといたしまして、「がん対策推進条例」の制定に伴い、検診体制の充実を図るため、胃がん検診を拡充しております。

胃がん検診は従来、集団検診の胃バリウム検査のみでしたが、医療機関で胃内視鏡検診を受けられる体制を、現在、医師会にご協力いただきながら整えているところでございます。

周知につきましては、ホームページのほか、広報などにより強化して行っていく予定でございます。

右側の夜間急病診療費は、1億5,459万3千円で、休日や夜間の救急医療を確保するものです。

二次救急医療については、消防の広域化もふまえ、当番病院を十勝医師会へも情報共有する体制がとられています。帯広市の二次救急当番病院の管内町村住民の利用割合が、約4割を占める現状になっています。この体制維持のため三次救急同様、十勝全体での支援体制が必要と考えております。

現在、十勝総合振興局主催により、19市町村の担当課長及び6病院の事務長等を参集範囲として、病院群輪番制にかかる課題検討会の先日第2回が開催されました。まずは現状、課題の認識共有と解決策の検討を始めています。

また、休日歯科診療につきましては、十勝歯科医師会に委託させていただき現在、日、祝祭日、年末年始において、9時～16時まで診療していただいています。しかし近年、日、祝日にも通常診療している歯科医院も増えていることから、受診者数が減少しています。平成31年度からは通常の、日、祝祭日は、9時～13時に診療時間を短縮するものです。なお患者数の多い年末年始、GWなどは従来通りの、9時～16時までの診療をするとともに歯科医師を2名、歯科衛生士が3名～4名に体制を強化していただくことになっています。あわせて診療短縮となる時間帯では、日、祝日に通常診療されている歯科医院において、急患を受け入れていただけるよう十勝歯科医師会にお願いしているところです。

次に、保健福祉センター費として、4,408万9千円を計上しております。こちらは、「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

最後に、右下にあります、介護保険会計であります、在宅医療・介護連携推進事業として、333万2千円が計上されております。基幹病院（4か所）への相談支援体制構築にかかる報償費、地域包括支援センター（4か所）への委託料を計上しているものです。

あわせて、ご報告させていただきます。説明は以上です。

#### ●部会長

「平成31年度の健康推進課関係予算（案）」につきまして、ご意見ご質問があればお願いします。

#### ●委員

胃がん検診の予防費ですが、胃内視施設検診は拡充ということで695万円の増だが、トータルでは減っている。予防費、がん検診・健康診査費も150万円くらい減額を見込んでいるのは、胃バリウムの件数が少なくなり、内視鏡施設検診が増えてちょうど同じくらいになると見込んでのことでしょうか。

#### ○事務局

実績により、対象者の数が減っているので、その分で減となっておりますが、胃内視鏡の予算として、695万1千円を確保しております。526名の予算を確保しております。一人単価が14,5

00円、自己負担を3,700円で計上しております。なおバリウムから内視鏡のほうに移行する方も多少いると思うので、その分のバリウム検診受診者を少し減らして計上しております。以上です。

●部会長

他にありますか。

●委員

がん条例の制定にあたって歯科医師会からも要望を出ささせていただいて、出来上がったものの中の第5条と第8条が口腔衛生に関する啓蒙のような項目が入っています。具体的な政策として、こういうことをやり、予算立てしていこうという動きはあるでしょうか。出来たばかりなので、次年度以降の話になってくると思うのですが、第5条は、市民は喫煙・飲食・食生活・運動の口腔衛生等の生活習慣の正しい知識を持つということ、第8条は、教育関係者は児童及び生徒が喫煙・飲酒・生活習慣・運動の口腔衛生等の影響を理解する。それを啓蒙していくようなチラシの作成や啓蒙事業を行うなど、現段階では何かあるのでしょうか。

○事務局

啓発啓蒙については、ホームページの強化や広報でも臨時のページを確保しております。今回新たな予算計上は、がんに関しての胃内視鏡についてで、今後は口腔衛生等も先生方のご意見もいただいているので考えていきたい。来年度の予算に新たなものは追加されていません。以上です。

●委員

高齢者の教室などで、その中に歯科の部分充実させてもらい、1回がんを含めた講義をしてはどうか。今は衛生士が話をしていると思うがそれを含めてやってはどうか。

○事務局

今のご意見は、高齢者福祉課の担当にも伝えます。

●委員

資料2の食・運動改善推進費ですが、口腔健康づくり推進員を検討していただけないか。次年度予算には含まれないと思うが、歯科医師会でもオーラルフレイルを発信していて、オーラルフレイル予防推進委員が出来ないか探っているところです。二次予防でも栄養・運動・口腔なので、食生活と健康づくりがあるので三つ目に口腔健康づくり推進員が入ってもいいのではないかと。意見です。

○事務局

補足ですが、保健事業と介護予防の一体化等の国の動きもあり、交付税措置の検討も直近の情報をいただいている。保健事業と介護予防の結びつきの中で歯科衛生士の方や、さまざまな口腔ケア、オーラルフレイルの観点から、取り組みを進めていかなければならない動きの中で、健康づくりの口腔推進委員という役割を持つ方々がどういう人がいいのか、どういう場面でどういう形で指導に結び付けるか検討を行っていく段階である。それと抱き合わせしながら、これからの帯広市の取り組みに関連付けていけるかも含めて、これからの検討の中に加えていきたい。

●部会長

委員からも質問がありましたが、昨今の医療費をいかに減らすか、予防していかに防ぐかが流れだと思う。そこにおいて、今年度の事業は、予防費を非常に減らし予算立てしたが、どうなのだろうか。さらに検診率が低いとよく指摘されている。それなら予算をアップし努力して未然に防いだり、早期発見ががんの基本なので、そういう取り組みに予算で、例えば大腸がんのクーポン事業であるとか、こんな割り振りをする考えはなかったのか。対象になる年齢が減ってきているから実績が減っているという考え方の説明があったが、そうではなく検診率を上げる方策を考えるのが本来ではないか。次年度以降でもいいので考えないといけない。同じことが予防接種費や感染症予防費についても、実績がないから前年度の実績を基にして予算建てをする。これに関しては、市民の健康に直結する問題なので、低ければ真摯に受け止め、なぜ低いのかを考えて検診率を上げるという努力をするのが行政ではないか。毎回がんのクーポン事業の話が出て、必ず予算付け出来なかったとそれで終わっている。果たしてそれでいいのか。がん検診の予防費、最近では不要ながん検診、がん予防に役立っているのか、検診の見直しがなされている。そのことを帯広市は今後どう考えていくのか伺いたい。具体的に言えば、前立腺がん検診は意味がないと皆さんがご存知です。受けることについてはいいが、がん検診の考え方が変わってきている。やはり先々を考えないと予算ばかり立て、お金だけ出ていき、その成果があまりない。成果が見えるような検診に振り分けてもらいたい。それについて考えがあれば教えてほしい。

○事務局

帯広市としても、厚生労働省が示す科学的根拠に基づいたがん対策、対策型検診として推奨、認められているものでしたり、前立腺がん検診については、他の5大がんに比べて効果、実施の質が変わってきているところを把握している。がん対策を考えたときに必要な人に必要なところにお金も時間もかけながら、取り組みを進めていく視点では考えているが、再来年度すぐという方向性までは見いだせていない。お話しはもともとだと思います。効果的な取り組みの方法、検討を行っていききたい。以上です。

○事務局

がん条例も4月1日施行ということで、これから帯広市として具体的に政策を展開していく段階に入っていく。今度の予算編成のサマーヒアリングに向けて、方向付け又は順位付けなども含め取り組みを行ううえでは、評価検証を取り入れているが、いただいたご意見もふまえながら必要な検証を行い、いい形で取り組めるよう改善したい。以上です。

●委員

歯科の場合は国保の歯科ドックがある。だいたい年間600~700人くらいの受診者。小樽市は、2,000~3,000人の受診があると聞いた。他地区でたくさん検診が来ているところの事例も調べて、どうしたら受診率が上がるかを検討してもらいたい。

●部会長

他にいかがでしょうか、

● 委員

前回、高齢者肺炎球菌の予防接種の各自治体の自己負担は、帯広市は2,900円、全道でいうとちょっといい方で、安いところは2,400円の登別や室蘭。帯広市は、金額をどのように考えているのか。全道では真ん中くらいだが、もっと安くしていく方向で考えているのか。私の考えは2,400円にすると受診者も増えるし、肺炎の予防として接種率を上げた方がいいのではないかと。自己負担を少なくしたほうがいいのではないかと。帯広市はどのように考えているのか。

○事務局

前回もご意見をいただきましたが、金額の設定はやはり他市町村等の状況も勘案して金額設定をしています。来年度につきましては、同様に2,900円の自己負担で計上しています。対象者が確実に接種していただけるように周知啓発、個別勧奨もしていますので、そういった工夫はしていきたい。今すぐ自己負担額を下げる検討はしていませんが、高齢者なので安くしてほしいというお話は十分わかります。ご意見として承りたいと思います。

● 委員

検討していくということですか。

○事務局

今すぐ具体的な検討はしていませんが、さまざまなご意見もありますので、そういったこともふまえて、多くの方に受けていただけるようなかたちにしていきたい。

● 部会長

ドクターヘリの28,000円は具体的にどういうことの予算付けなのか。

○事務局

こちらは年に一回釧路で会議があり、そちらに出向く旅費の計上です。

● 部会長

道東ヘリの会議の旅費ということ。

わかりました。

あとは、いかがでしょうか。よろしいですか。

【質疑なし】

かなりの意見が出ましたが、そのあたりを反映していただければと思います。

他になければ、平成31年度健康推進課関係予算（案）についての審議は終了いたします。

その他に入りますが、その点何かありますか。

【質疑なし】

なければ、事務局からお願いします。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、稲葉部会長と調整させていただき、皆様にご案内させていただきますので宜しくお願いいたします。以上です。

●部会長

以上で予定されている議事は終了いたしました。  
ご苦労様です。